

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第14号 平成20年 3月 7日 発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分

平成20年 2月26日

目 次

- 巻頭言 「教育センターに期待すること」
日野市教育委員会 指導主事 鈴木 基 p - 1

- 幼稚園・小学校・中学校の「学びの連続性」を目指して
教育課程研究委員会 p - 2

- ICT 活用に関する研究 ICT 活用研究委員会 p - 3

- ICT を活用した教材開発とコンテンツの収集の研究
ひのっ子教育 2 1 開発委員会 p - 4

- 子どもたちに伝えよう「ふるさと日野」の自然・歴史・文化
郷土教育推進研究委員会 p - 5

- 1 年間の研修活動 教職員研修係 p - 6

- 一般教育相談 一般教育相談係 p - 7

- わかば教室の活動 学校生活相談係 p - 8



教育センターに期待すること

日野市教育委員会
指導主事 鈴木 基

今年3月に幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の改訂案が公表されました。現行の学習指導要領の理念である「生きる力」を育むことは、新しい学習指導要領に引き継がれます。

この生きる力とは、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」や「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」などのことです。今回の改訂は、この「生きる力」を育むという理念を実現するための具体的な手立てを確立するものです。

さて、今回の学習指導要領改訂のポイントとして、以下のような点が示されています。

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ・ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ・ 確かな学力を確立するために必要な時間の確保
- ・ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ・ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

今後は、以上のようなポイントを踏まえた学校教育を実践していくことが求められています。

また、「生きる力」を育てる具体的な教育内容として言語活動の充実、伝統や文化に関する教育の充実も取り上げられています。

これは、まさに日野市立教育センターが行っている調査研究事業の教育課程研究、郷土教育推進研究と一致しており、教育センターでの研究が、先進的な教育内容に即したものであることがわかります。

さらにこれからの教育的課題として、教師の指導力向上、とりわけICT活用指導力を身につけることや、毎年増えている若手教員を育成すること、また、子どもの悩みを抱えた保護者の多種多様な相談に対応することなどが挙げられます。教育センターはこれらの課題にも対応してきました。

今年度は、所員の先生方全員に2・3年次教員の夏季研修の指導・助言に関わっていただきました。また、夏季休業中は、連日、コンピュータ室が、受講者の先生方の熱気であふれていました。ほかにも教育センターにおける研修や、教育相談室、わかば教室での教育相談活動などにより、課題解決に向けた取組がされています。

このように、日野市立教育センターは、日野市の教育研究のシンクタンクの役割を果たしています。今後も教員の「教師として成長する場」であり、児童・生徒・保護者の「心の拠り所」として日野の教育を元気にしていく役割を担っていくことを期待しています。

平成19年度 調査研究事業年間活動の概要

調査研究部では「教育課程の研究」「ICTの活用に関する研究」「ひのっ子教育21開発委員会研究」「郷土教育推進研究」の四研究を関係諸機関のご協力の下、進めて参りました。以下、年間研究のあらましをお知らせいたします。

1. 教育課程（カリキュラム）研究

—教育課程研究委員会— 基礎調査研究係

教育課程研究委員会では、幼稚園、小・中学校教育の円滑な接続を目指して、「学びの連続性」に焦点を当てた研究を進めました。幼稚園から中学校に繋がる学習指導のあり方を基軸に、(1)国語力・読解力を通した研究を進めました。(2)幼稚園から中学校まで滑らかに繋がり学力の向上を目指すには、幼・小・中が授業改善の観点を明確にし、共有することが重要と考えました。(3)そのことによって系列的・系統的な学びを連続させていけば、幼・小・中が滑らかに接続できると考えました。

この考えに立って、「読解力を育てる授業計画の視点」を幼・小、小・中それぞれに明らかにしました。また、幼・小では、語彙を拡充し、国語力・読解力を高める基礎的な部分の検証観点表、小・中では、論理的表現力を育成する検証観点表を作成して、幼稚園年長組、小学校1年生、小学校6年生、中学校1年生で検証を進めました。その結果、幼・小・中を通じて授業改善の観点を共有し、系統的で一貫性をもった指導が必要なこと、そのためには、従来の指導法を吟味・批評する読解指導の意識改革を続けていくことの大切さがわかりました。

小・中接続／

読解力を育てる授業計画の視点

①「教材を突き抜けて読む」学習を計画する。



②「表現する」ことを目的とした学習指導の仕掛けを計画する。この仕掛けにより言葉や文脈を意識して思考力を働かせることが可能となる（論理的に読む）。



③「表現するために書く」・「表現するために読む」視点を持って指導する。



④筆者を読む（論理を読む）授業計画・展開を考える。



検証観点表 —小・中—

（論理的表現力の育成の視点から）

	観 点	指導要領	
		小 6	中 1
1	（語句の把握）言葉を意図的に拾っている場面	言（1）	ア
2	教材の筆者と絡んだ展開を拾っている場面	エ	オ
3	根拠や理由の明確化を目指す場面	エ	オ
4	発達段階に基づいた内容把握場面 小：要旨 中：要約	イ	イ
5	発達段階に基づいた構成は悪罵面 小：事象と意見 中：中心と付加、事実と意見	エ	ウ
6	論理的思考力を働かせるための「仕掛け」を作っている場面	エ	オ
7	「読む」と「書く」の連動場面の設定	エ	オ
8	視点人物に絞った展開	ウ	エ

2. ICT 活用に関する研究

— ICT 活用研究委員会 — 教育経営係

今年度は、「日野市立小学校・中学校のICT活用教育の充実」に向けて、四つの部会が部会ごとの課題を設けて目標達成を目指しました。その中で、ICT 基盤である環境整備策定部会の果たした役割は、学校の ICT 環境整備の充実に大きく貢献しました。

昨年秋に中学校の ICT 環境が整備されました。同時に、モデル校の中学校では、教育センターでの夏季 ICT 活用研修会参加の成果や二学期に優先的に行われたメディアコーディネータによる授業支援等も生かし、ICT 活用教育の推進役を担い発表に結びつけました。

<ICT活用実践部会>

研究の成果 「ひのっ子に確かな学力の向上の保障！」 「教師の ICT 活用指導力の向上！」

モデル校・推進校
研究発表

“わかる授業・魅力ある授業”

“自ら学びあう授業・互いに高め合う授業”

- モデル校：日野市立大坂上中学校 平成 19 年 11 月 30 日

研究主題 「小・中連携による子どもの力を伸ばすための指導法の工夫・改善」

小・中連携教育は、日常的に校務支援システムの掲示板（連携 4 校の掲示板を作った）を活用し、情報交換・意見交換を重ねた結果、先進的な ICT を活用した授業や発表となりました。

- 推進校：日野市立潤徳小学校 平成 20 年 1 月 25 日

研究主題 「わかった！できた！」を引き出す授業力の基礎・基本 ～特別支援教育の視点を生かして～

ICT の活用は、ごく自然に、なくてはならない道具として位置づけられ、どの子にもわかりやすい授業が全学級で公開されました。

- モデル校：日野市立平山中学校 平成 20 年 1 月 29 日

研究主題 「ICT を活用した魅力ある授業づくりをめざして」

全教科・全学年で ICT を使った授業が公開されました。生徒が「イメージしやすい」「理解しやすい」授業の展開は学ぶ意欲の向上がはっきり見られました。



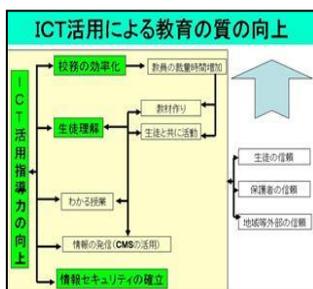
- モデル校：日野市立日野第三中学校 平成 20 年 1 月 31 日

研究主題 「ICT 校務支援システムの活用実践」

「校務支援システムの活用実践」のみでなく「ICT を活用した授業改善—生徒が理解を深める学習指導—」についての研究成果も発表しました。1、2 年生全学級で ICT を活用した授業も公開されました。

日常の校務支援システムの活用、ICT を活用した授業改善への取り組みが ICT による教育の質の向上となった成果も報告されました。

←三中研究発表資料より



- モデル校：日野市立日野第三小学校 平成 20 年 2 月 1 日

研究主題 「国語科における ICT の活用」～かわわりが広がる・表現力が高まる～

授業の質を高め、児童に確かな国語力を身につけさせるために ICT を効果的に活用した国語科の授業が全学年で行われました。

国語科の目標達成に迫る先進的な「わかりやすい授業・学びの高まる授業」が公開されました。



教育センター調査研究事業発表会（平成 20 年 2 月 26 日）にてモデル校（日野第三中学校・平山中学校・大坂上中学校・日野第三小学校）推進校（潤徳小学校・夢が丘小学校）が課題別に発表。概要は、教育センター紀要に掲載されます。

3 ICT を活用した教材開発とコンテンツの収集の研究

—ひのっ子教育21開発委員会— 教科等教育係

ひのっ子教育21開発委員会（以後文中：開発委員会と表記）は、日野市における学校教育の課題を解決するために設けられており、実施要項に「開発委員は、日野市教育委員会の教育目標の達成を目指し幼児教育、教科・領域等の教育内容、教育方法、教材開発の実践的研究を行う。」と規定されています。

日野市教育委員会では、昨年度から「日本一のICT教育」を目指し、市立小中学校でICTを活用した教育活動の充実化を図っています。開発委員会は、このICT活用教育の充実化に向け、「教育用コンテンツの開発及びインターネット上にある教材研究に基づく授業実践」をテーマに下記のように研究に取り組んで来ました。

そして、信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授東原義訓先生に指導を受けながら、研究を進めました。

1. 目的及び内容

- (1) 良質の教材（*study21）を活用した授業を行い、コンピュータから得られた評価を生かして算数指導力を高める。（小）
- (2) 学力向上のために、ICTを活用した教材を開発し、評価結果を生かす。（小）
- (3) 目標の達成状況の把握及び補充教材の作成を通して、個に応じた指導方法の向上を図る。（小）
- (4) インターネット上にある教科についての効果的な教材について吟味し、それを活用した授業実践を行う。（中）

2. 研究の成果

平成18、19年度の二年間の研究を通して下記のような成果を得ることが出来ました。まず第一に、開発委員の開発能力の向上が図られ、各学校でリーダーとして活躍できることであり、第二に、開発された教材やコンテンツを、来年度からICT教育推進室のホームページにアクセスすることにより活用でき、日野市の先生方、児童・生徒の学習活動に利用できることになりました。

〔小学校班〕

- (1) 教材開発ソフト「スタディーライター」を用いて算数科の各学年の教材の開発し、インタラクティブ・スタディーの算数科、各学年各1単元以上を作成できました。（特色：この教材は、児童一人一人が自分の学習速度で学習が進められることと、あわせて指導者が個々の学習状況・進捗等が、パソコンの先生機でデータとして瞬時に把握でき、直ぐに指導に当たれるという優れた機能を備えたソフトで活用します）。
- (2) 開発ソフトの活用化に向け、解説書（Q and A）の作成。

開発ソフト及び既存の教材ソフトを用いての授業を行うためのノウハウをQ and A形式にまとめ、日野市の先生方が気軽に活用し、理想的な授業が出来るように工夫してあります。

〔中学校班〕

インターネット上のコンテンツを収集し、300余のサイトを持つリンク集データベースを作り上げる事が出来ました。各サイトは更に先につながっている物も併せると更に多くのサイトにつながり、今後各学校で教科等の指導に活用され授業の充実を図ることが出来ます。



コンテンツを活用した授業実践

4 子どもたちに伝えよう「ふるさと日野」の自然・歴史・文化

一郷土教育推進研究委員会一ふるさと教育係

“ふるさと日野”に自信と愛着をもつ「ひのっ子」の育成を願い、推進研究3年目となる本年度は郷土教育が市内の小学校・中学校にさらに普及し、着実に根づいていくことを考え、

- ①これまでの指導事例第1集・第2集を総合したものとして『郷土教育「指導事例第3集」』が読みやすく、見やすく、利用しやすいものになるよう工夫しました。
- ②指導者にとって、郷土教材の活用が容易にできるように、これまでに取り上げた郷土教材の写真資料の一部の電子化を進めました。
- ③小・中学校、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、図書館、教育センターが協働して研究を行い、多様な視点から教材を収集・発掘、関係する資料を豊富に紹介することにしました。「指導事例 第3集」については、新年度に入った4月末までに、小・中学校とも学級数分で配布する予定です。



- ●まずは、指導者が読んで「ふるさと日野」を知る
- ●次に、平成20年度の教育課程実施の中で活用する
- ●そして、児童生徒には“地域を学ぶ”・“地域で学ぶ”楽しさを感じさせる

以上の実施をを願い、ひのっ子の成長を期待します。ところで、学校では郷土（地域）に関して集めた情報を、児童生徒・学校の職員・PTAなどの方々の目に

ふれやすく、利用しやすいように、保管を考えた取り組みが行われているのでしょうか？

ご存知のように各学校の協力をいただいて、『郷土日野』指導事例 第1集』では、「これまでに先生方が授業に導入している郷土教材名」を、『指導事例 第2集』では「各校の周年記念誌に収録された郷土教材」について学校別に載せました。

『指導事例 第3集』では、「学校が保管している郷土資料に関する調査」を行い、①航空写真 ②日野の用水や湧水、水車に関する資料 ③学区域の特色となる自然・歴史・文化に関する資料を中学校区別に、また、小学校別にしてまとめて掲載しています。

こうしてみてもみますと、学校には郷土の自然・歴史・文化を伝える【貴重な日野の宝】がたくさんあることもわかります。しかし、実際には、戸棚の中に入ったままであったり、個人の保管になってしまったり、掲示が古く、いつごろ？・誰が？といったことがわからなくなってしまったりする傾向もあるようです。

右の写真は、図書室の一角に「日野市情報コーナー」を設けて、いつでも、誰でもが活用しやすい状態になっている日野第二中学校の例（指導事例第1集に掲載）です。



是非とも、それぞれの学校で考えられた方法で工夫してみてください。

また、「指導事例 第1集」、「指導事例 第2集」、これからお配りします「指導事例 第3集」の3冊をセットにして学校保管をし、活用していただくことをお願いします。

研 修 部

—教職員研修係—

本年度4月からスタートした日野市教育委員会主催教員研修会名と内容及び参加状況をお知らせします。

月	日(曜)	研 修 会 名	内 容	出席人数
4	26(木)	学校組織マネジメント研修Ⅲ	主幹への期待と職責	30名
5	16(水)	学校組織マネジメント研修Ⅰ	学校組織の活性化とメンタルヘルス	25名
	16(水)	幼児教育研修会	子どもの健康をめぐる課題	24名
	18(金)	人権教育推進委員会	人権教育の考え方	21名
	25(金)	情報安全教育研修	情報セキュリティポリシーの第一歩	29名
	31(木)	学校組織マネジメント研修Ⅲ	学校の活性化と組織マネジメント	29名
6	1(金)	授業力アップ研修	自己の授業の問題点の発見	62名
	26(火)	学校組織マネジメント研修Ⅱ	人材育成と能力開発・人事管理	23名
	27(水)	幼児教育研修会	義務教育へつなげる就学前教育	26名
7	26(木)	学校組織マネジメント研修Ⅰ	学校における接遇の在り方	18名
	26(木)	学校組織マネジメント研修Ⅱ	学校における接遇の在り方	22名
	27(金)	郷土教育研修	日野駅周辺の歴史的建造物の見学	13名
	30(月)	環境教育研修	日野市谷地川の生物観察	20名
8	1(水)	2年3年次教員マナー研修	接遇の在り方	61名
	2(木)	専門研修全体会(午前)	「いま、私たちにできること」	473名
		講演2題	「校務の情報化」	
	3(金)	専門研修全体会(午後)(講演)	「特別な支援をあたり前の支援に」	515名
		生命尊重教育研修	動物園の役割・レクチャー	
	6(月)	生命尊重教育研修	飼育の方法と実際の世話	13名
		教育相談研修	構成的グループエンカウンターの実演	15名
	7(火)	教育相談研修	ロールプレイングの実践	19名
		国際理解教育研修	英語活動の必要性	6名
	21(火)	授業力アップ研修Ⅰ	自身の授業をみて授業改善討論および	64名
22(水)	授業力アップ研修Ⅰ	分科会ごとの発表	64名	
24(金)	国際理解教育研修	英語活動の必要性	5名	
9	26(水)	幼児教育研修	義務教育へつなげる就学前教育	22名
10	11(木)	学校組織マネジメント研修Ⅲ	主幹としての1年を振り返って	32名
	11(木)	人権教育研修会	授業研究	26名
	24(水)	幼児教育研修	義務教育へつなげる就学前教育	41名
	30(火)	情報安全教育研修	ネット上のトラブルの現状とその対策	42名
11	14(水)	幼児教育研修	義務教育へつなげる就学前教育	17名

今年度の反省と来年度へむけて

授業力アップ研修Ⅰにおいて所員の先生方の応援をいただき、若手教員が研修をより一層深められたと考えます。それは必要性に応じた研修であったことからだと思います。来年度においてもすべての研修内容が今日的な課題を踏まえる必要があります。そして、今一番必要な研修内容について市教委を中心に協議し、方針を提示していただくことで、それらをサポートするセンターとしての役割を果たしていきたく思っております。

今年度も本相談室の目標に掲げたことは、下記のように例年と変わらない目標でした。

- 1 多くの方々に利用していただく相談室にする。
- 2 学校や適応指導教室等と連携を図りながら、相談を展開する。
- 3 専門性向上のためケース会議やスーパーバイザーのカンファレンスやほか研修に努める。
- 4 他機関との連携を推進し、積極的に要望に応える努力をする。
- 5 来談者のため、環境整備に心がける。

以上のことについて今年度の評価を行いました。

- 1 については、今年度もまだ途中ですが、電話相談、来室相談等についても増加の傾向にあります。面接および電話相談でいえば、12月末時点で昨年度と比較すると次のようになります。

	面接子	面接親	面接電話	こころの電話	電話相談	合計
18年度	556	605	284	39	140	1624
19年度	597	697	335	43	159	1831

※ 面接電話というのは、親子の面接以外で電話や面接等で相談したケース。

このように、いずれの項目においても昨年度を上回っています。このことは今年度予算措置の中で出勤延べ日数を増加していただいたことにより、相談員が、より多くの相談に応じられるようになったものと考えられます。また、相談者も増えてきていることがわかります。相談待機者のウエイティングリストを作らなくてはならないこともありました。

- 2 については、健全育成担当や適応指導教室等と学校訪問をして、相談室の利用について説明し、学校の先生やスクールカウンセラーを経由して申し込んでほしいと話したということがあげられます。そのことで相談を進める上で相互の誤解も少なくなり相談効果も大きくなったと考えます。また、相談を進めるにあたり担任や関係者と連携するために、相談員自ら学校を訪問し、授業・行動観察をし、子どもの現状を理解して話し合いがなされたことは効果的であり、課題を学校と相談室で共有できたことが課題解決に大いに役立ちました。
- 3 については、今年度も昨年度同様のカンファレンスや出張等ができて困難ケースに対するアドバイスや相談員自身の栄養とすることができました。このことで相談への応え方の向上にも役立っています。スーパーバイザーは、相談員にとっては重要で安心して相談できる存在です。
- 4 については、求めに対しては積極的に応じてきたと考えます。しかし、特別支援教育に関するテストの要請には限度が生じています。それは、テストを取るには施行と結果を分析し解釈するのに、多くの時間を要し、面接等に関係する時間が限定されるためです。
- 5 については、環境整備は大掃除の日を設定し、清掃だけでなく玩具や遊具等の点検等もして安全に配慮しました。駐車場の確保、空調設備を設置しました。朝夕の換気や冷房暖房等にも配慮しました。

今年度の自己評価は以上ですが、まだまだ改善・改良を加えなければならないところも多くあると思います。そのために外部からの評価を是非寄せていただきたいと思います。今後も努力をする所存ですので、よろしくお願いいたします。

学校生活相談「わかば教室」の活動

一学校生活相談係・わかば教室一

学校生活相談係は、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題や「わかば教室」に通室する児童・生徒に対しての相談・指導・援助、及び、不登校問題に関する状況把握・情報提供や助言等を行ってきました。

「わかば教室」の主な活動は次の通りです。

1 教育相談活動

カウンセラーが、通室する個々の子どもと定期的に継続して面接を行いました。随時保護者や在籍校とも相談してきました。継続したカウンセリングで多くの子どもが精神的に安定し、目標を持った生活をするようになりました。保護者と一体となれた連携、家庭のゆとりある対応がよい結果を生んでいます。通室者の増加や保護者面接の重視を考慮して面接スケジュールの工夫改善をしていきます。

2 教育活動

(1) 楽しい体験活動（わかばタイム・行事）



保育園奉仕・交流

高幡台老人ホームや保育園では、「心待ちにしていましたよ」「ありがとうございます」「また来てね」と感謝されました。どの体験活動も参加人数が多く、笑い・活気・時には涙溢れる感動がありました。活動参加から学習参加へ、集団の輪の中へと適応していくことが多いです。

(2) 丁寧な生活指導

指導員は本教室の方針に沿って、いつも子どもと一緒に行動し個々の理解のもとにより人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の回復等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。子どもの多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達と時程に沿って行動できるようになりました。毎日朝・昼休みは、皆で、スポーツを楽しんでいます。

(3) 個に応じた学習指導（5教科を中心にした学習タイム）学年や学習進度、子どもの思い等を考慮して個別時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・援助を行いました。自分のできるところから始めるので、多くは意欲的で、自ら求めて学習する姿も見られました。

3 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

以上の活動は学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力に支えられています。子どもの活動には、地域の方々やボランティアの学生方の協力が大きかったです。一般教育相談とは日常的に連携してきました。



パソコンを活用して学習

今年度は特に通室者が増加し、部分登校者や学校復帰者も増えました。本教室では今後も子ども理解に努め、子どもたちが目標を持ってステップアップできるよう援助するとともに、学校に行けるようになった子どものケアは関係者の協力を得て進めていきたいと思ひます。

